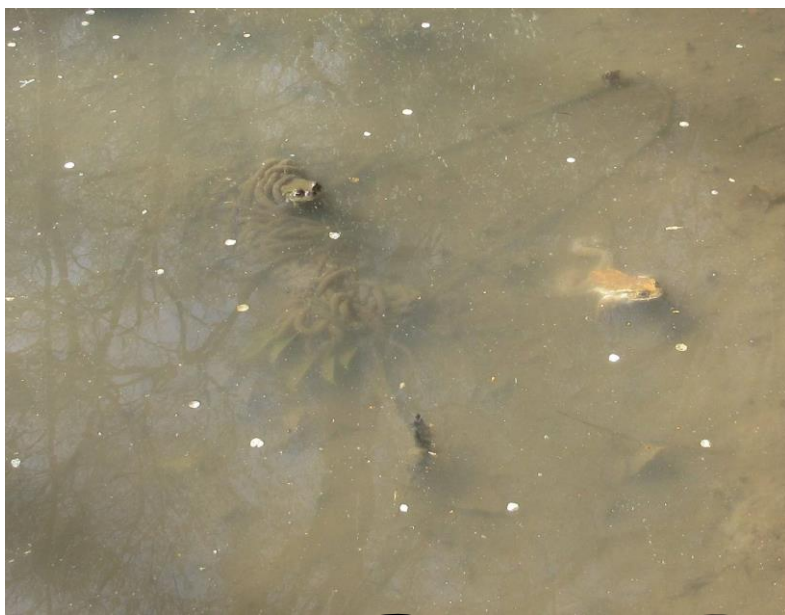


	<p>2023年 4月1日 第155号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://mizumidori2.eco.coocan.jp E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894</p>
---	---

今年のカエルたちは

2月19日にトンボ池に湧き水を入れました。カエルたちの様子を観察するようになると雨量が気になります。湧き水の水量が少なく橋の右まで届きません。それでもカエルたちの産卵には十分な水量です。3月に入って気温は上昇、連休ごろの陽気だといわれてもカエルはまだ。やっと3月9日、朝3匹、午後山田さんが4匹のカエルを確認しました。12日には卵4塊残してカエルたちは解散（後で1匹居残りあり）。カエルたちが池にいたのはたった4日間でした。カエル合戦を繰り広げるにはさみしい数でした。

昨年見たカエルは6匹だったので、まあまあの数。苦労して池を改修したけどカエルが来るか心配でした。今や、池に来たカエルの数に一喜一憂しています。その後新しい卵塊があり、持ち込み避難した卵とカエルが増えました。



ざりがに
蛭蛄を退治中とふ池溜るる （寺尾 敬子）

寺尾さんの作品です。冬に池の水を抜いて作業中の池の風景だそうです。

トンボ池の今年の目標

オタマジャクシがしっかり育ち、豆ガエルになって巣立つことと、ヤゴがトンボになるのを確認することです

冬の間、池底の泥まじりのヘドロを掻き出しました。そのヘドロを土嚢袋に詰め、壊れた畔にならべ、畔の上から掻き出した泥を被せ、叩いてなじませました。作業は重労働でしたが、通りがかった人が、翌日長靴、ゴム手袋、作業道具持参で手伝って下さり、見ていた寺尾さんも枯れ草の片付けで応援、この日2月19日で作業は終了、水路の湧き水分岐で、止水用の土嚢を移動して湧き水を入れました。



泥を入れた土嚢袋の上を切って並べ畔の芯にしました。土嚢に泥を被せて叩きました。飛び入りボランティアの男性（右上）は、栃木に畑を借りていて定期的に畑や家や家周りの手入れをされているとかで、超ベテラン、ありがたい応援でした。



左は3月19日の様子。湧水量が少なく、池の半分しか水が溜まっていますが、雨が多くなると満水になるでしょう。

3月24日、20℃を超える暖かさに、もうザリガニが出てきました。懸命に駆除したのになあ。橋のそばの卵塊がまるごと消失、誰かに持ち去られたようです。



3月27日にカルガモ防止のネットを張りました。カエルは大量に卵を産みますが、オタマジャクシは小さく、ほとんどが天敵に食べられてしまいます。トンボ池では、人間も取っていくし、カルガモが毎日来て食べていくし、ヘビもザリガニも食べます。

前日からカルガモが飛来しているとか。ネットは、カモは入れない、水の出入りを妨げない、オタマジャクシが流出しないようにしなければならず、今年はどううまくいくかどうか。

沖山の池のカエルたちは

沖山地区の水たまりは冬には涸れてしまい、ここ2、3年繁殖できませんでした。今年、雨が降った翌日の3月19日、ほとんど水のない池には卵が一面に産み付けられていましたが、20日には干上がり寸前、23日は雨、でも24日朝、池の底が湿っている程度で、水はなく卵は全滅。池の外には子供が引きずり出したらしい干からびた卵の紐が放ってありました。帰ろうとしたとき、「くっくっ」という鳴き声が聞こえ、目を凝らして探しました。そうしたらいました。おんぶしたつがいのカエル。気が付いたら3匹になって絡み合っています。天気予報ではしばらくなたね梅雨が続くらしい。今年はどううまくオタマジャクシが育つといいのですが。

この池は、今は雨が降った時にできる水たまりですが、以前は、晴天時に水が側溝に音を立ててオー



バーフローしていたときもあり、しみだした湧水もある（あった）場所です。雨は、沖山の崖と崖上の地面に涵養されます。ここは東京都の生物多様性事業の一環で、野草の咲く雑木林を目標として常緑樹が伐採されました。明るい樹林地になりましたが、斜面は低木のアオキの株がある他は裸の土、雨は地面にしみ込まずに流出してしまう。今後どうなるか注目していきたいです。

バッタ広場では

日差しが強くなって、カラスノエンドウなどの野草が地面を覆い、クズの芽も出てきました。木の葉が落ち、木にかぶさっていたクズの葉も紙屑のように地面に散らばっています。明るいバッタ広場に自然を探しに子供も大人もやってきます。幼稚園の大きい子供たちは中を走り回って遊ぶ。裸になった枝のカマキリの卵が見つかりやすくなりました。手が届かない高い枝の卵に野鳥が来てつく。子供たちは枝についた卵を目ざとく見つけてゲットする。身近にある自然の恩恵は虫たちにとっては悲劇。「取らないで」と言っても無駄。だから見つからないでね。



左は野鳥にかじられたカマキリの卵。右は同じ木にあったカマキリの卵（2月25日撮影）。翌週には何者かに取られてなくなった。

自然観察ボランティアスキルアップ講座に参加しました

3月6日に神代植物公園の植物多様性センターにて植物観察、保護活動のボランティア活動のスキルアップ講座に坂本さん、山田さんと共に瀬田も参加しました。

神代植物公園は休館日でしたが、植物多様性センターではボランティア講座が開かれました。

植物多様性センターは大きくは武蔵野ゾーン、奥多摩ゾーン、伊豆諸島ゾーンに分かれ、更にそれぞれを12のエリアに細分化してそれぞれのエリアの植物がある公園です、

講座の内容は植物観察の後、グループ毎に分かれて、具体的に子供向けのプログラムをどうするかを話し合いました、対象年齢、季節、場所、形式などをどうするか話し合いました。

私の参加したグループでは、善福寺公園、井の頭公園などで活動している方が居て短い時間の中、具体的で手慣れたやり方でどんどん進められて違いや特性もありますが参考になりました。

水と緑の会でも何度かバッタ広場で、小学生に昆虫観察のプログラムを実施したことがありますが、他の公園では植物だったり、植物を使った工作だったりが多く、昆虫のところはなく、昆虫観察ができるバッタ広場は、貴重な場所だと再確認しました。

水と緑の会の貴重な特性を活かした活動をあらためて考えてみる参考になりました。

瀬田政江

板橋とは環境がぜんぜん違って、広さだけでも感激しました。

センター内は、いろいろな環境、例えば火山地帯の砂礫や海岸地帯の土壌環境を作り上げて、植

物を育てていた。勿論普通の植物も有り、植物に関する「はてな」を答えてくれる人たちがいて、幼稚園児から小・中・高校生そして大人までが、楽しんでいろんな事が学べる所で、みなさんも行ってみたいかがでしょうか。

研修は、小さい子から大人までを対象に、如何に植物の世界に遊び学べるオリエンテーションであったが、視点が同じように感じられた。

これからは、地球温暖化の問題も絡んできて、異常気象の対策、対応なども、学んでいかなければならないのではないのでしょうか？

板橋の自然を次の世代に残しておきたい、そう思うのは私だけではないと思います。

若い人の参加を期待しています。

山田 元一郎

3月6日、東京都神代植物公園にある植物多様性センターの「植物観察・保護活動ボランティア向けスキルアップ講習」に会員3名で参加しました。場所は深大寺のそば、三鷹駅からバス、板橋からかなり遠い。テーマは「子供にも伝わる自然観察プログラムづくり」。

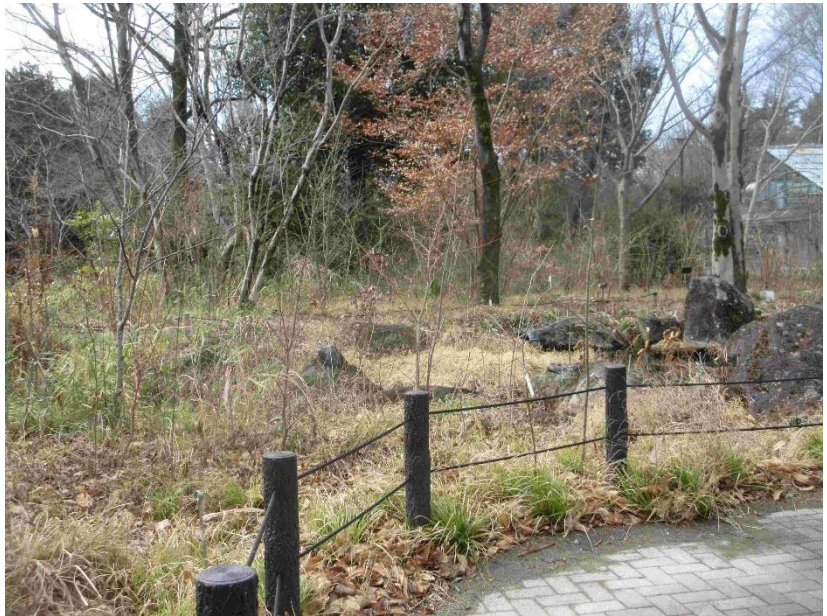
私たちはトンボ池とバッタ広場という生き物たちのための場所をつくり、手入れをしています。通りかかった人たちに説明したり、掲示板に自然の紹介をしたり、会報「みずみどり」で自然ニュースを発行しています。また夏休みには親子でバッタ広場の生き物探しというプログラムを実施し、赤塚公園のどんぐりまつりでは、親子で自然にふれる観察や体験を実施していますが、どうしたらうまく伝えられるか、いつも悩んでいます。私たちが主催して、子供たちが自然に親しみ、自然と友達になり、自然を大切にする機会もつくっていきたいと思っています。

講習会では参加者は4班に分かれ、フィールドに出て観察の実際、私の班では武蔵野ゾーンで、冬芽の観察。植物に詳しいベテランばかり、部屋に戻ってグループでテーマを決め、観察会のプログラムをつくります。

ここでは、素人に近い私の思い付きも尊重してもらいました。園内の自然も楽しめ、他の参加者の話も新鮮で勉強になりました。

植物多様性センターは、神代植物公園に隣接し、月曜日は休館日。園内の植物には説明版、情報館には展示いろいろ。冬芽のクイズがあり私は3分の1しかできませんでした。物知りになります。

坂本 郁子



武蔵野ゾーンでは、葉を落としたコナラやクヌギの冬芽を観察、トチノキの枝で1年間に成長した節がわかった（私は??だった）。落葉低木や実生木、枯れ草もそのまま残されていた。

子供のヤマザクラが満開



徳丸緑地に自然に生えてきたヤマザクラが満開。種から芽生えた子供の木です。私の想像ですが、木は草刈りで刈られた後、その切られた根元から芽がいくつも出て、枝を広げてよい姿になっています。昨年も花をつけていましたが、今年はさらに立派。3月19日撮影。



沖山の崖の樹林

左は、カエルが産卵する沖山の水たまりの上の崖の樹林地です。撮影は3月24日、上のヤマザクラより数日後です。常緑樹を伐採した後も野草は生えて来ず、上のヤマザクラの写真のような下草はありません。

5頁の植物多様性研修センターの武蔵野ゾーンの写真（3月6日撮影）のように若い木や枯れ草もありません。

私たちは花を求め、新緑やかわいい野草

に目を向けますが、木々や野草が育つ地面にも注目したい。手入れには草刈り機が使用されます。草刈り機は便利ですが、子供の木や目立たない野草が切られてしまうことも多く、次世代の植物を育てていくのがむずかしいように思います。

エコポリスセンター かんきょう何でも見本市に出展しました



エコポリスセンターの「かんきょう何でも見本市」に今年も出展しました。コロナ対策のため展示だけです。パネルは私たちの活動場所の赤塚トンボ池とバッタ広場の様子と冬のバッタ広場で暮らしている生き物の写真、テーブルにはごちゃごちゃと展示物を並べました。ドングリの特徴を書いた説明と実物の展示（ドングリといってもいろいろあるのです）、木の年輪、種などいろいろ。文字は読まれないのが最近の風潮。展示物があっても見せ方の技術も未熟で、見ただけではわからないと思うともどかしい。ポスターセッションなんかできないでしょうか。

北本自然観察公園の

ゴールデンウィーク・新緑オリエンテーリングに行ってみよう

日時・集合場所 5月7日（日）赤羽駅北口改札口9時20分

目的地 北本自然観察公園 高崎線北本駅下車バス15分

オリエンテーリングは、参加者が地図を見てクイズに答えるイベントなので、遅れてきても大丈夫。雨でも実施。

午後2時～3時に観察会もあり、参加する場合は、弁当水筒持参で。

問合わせは坂本 (mizumidori@nifty.com) 当日は090-4618-1295)

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894
坂本 090-4618-1295

1 赤塚城址ちょっと観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら元いたところに返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

4月9日（日）10:00～11:30

5月14日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・手袋（軍手）、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

4月22日（土）10:00～11:30

5月27日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

3 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

5月6日（土）10:00～11:30（土曜日に変更します）

6月4日（日）10:00～11:30

7月2日（日）10:00～11:30

4 北本自然観察公園に行きます

5月7日（日）9:20赤羽駅北口改札口集合（詳細は7ページ）

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。